

周波数の国際協調利用促進事業 令和2年度 事前評価結果

案件名		実施期間	評価会での主なコメント	評価点
周波数の国際協調利用促進のための技術動向等調査及び国際展開戦略の検討	リニアセルレーダー	R02-R03	<ul style="list-style-type: none"> マレーシア空港の要望を入れて現在までに国内外で実施中の技術をさらに展開することは、重要であり、妥当。 マレーシア政府と協力して ITU-R（国際電気通信連合の無線通信部門）への標準化を推進し、さらに航空業界に影響のある ICAO（国際民間航空機関）での標準化を進めていることによって、将来への道筋を付けたことが妥当な方法であると言える。 滑走路に関しては、これを Showcase として事業化のフォローアップが必要。 	4.7
気象・防災プラットフォーム技術の国際協調利用促進	ダム管理用雨量レーダー（固体素子型）	R02-R05	<ul style="list-style-type: none"> 目的の適合性について、気象レーダー市場は欧米企業が強く日本企業のシェアが少ないところ、事前の検討と協力により、タイ政府との対話にこぎつけられたことは大きく評価できる。実証実験によって実質的導入に繋げるという目標は妥当。 東南アジアにおいて、X バンドレーダーネットワークが広まる契機となることが期待される。一方で、欧米メーカーが主体の市場において、日本メーカーが受注するための確実な一歩となるよう十分な事後評価を望む 	4.5
地上デジタル放送及び4k・8k技術の国際協調利用促進	地上デジタル放送及び4k・8k技術（地上デジタル放送高度化方式の国際展開）	R02-R04	<ul style="list-style-type: none"> 目的の適合性について、日本方式地デジ海外展開の目的を明確にする必要あり。日本企業が各国の市場に参入することを助ける意味ではバリューチェーン全体に影響を与えるプランが必要。各国へのアプローチが独立しているのは各国の状況により仕方がないが、各国の施策が有機的に連携していることが分かりやすくすべき。 この取り組みは放送分野のみならず日本への信頼度を促進し様々な分野での協力拡大につながる可能性がある。 	4.2